

第15回 糸魚川市教育委員会定例会会議録

- 1 日時 令和6年10月23日(水) 10時00分から
- 2 会場 糸魚川市役所 201・202会議室
- 3 出席委員 教 育 長 齋藤 修一
教育長職務代理 谷口 一之
委 員 齋藤 里沙
委 員 楠 愛
委 員 秋山 伸宏
- 4 委員以外の出席者
教育次長 山本喜八郎
こども課 課 長 室橋 淳次 課長補佐 田村 公一
管理係長 田代 正人
こども教育課 課 長 古川 勝哉 参 事 小川 豊雄
課長補佐 関澤 仁 係 長 植木 靖英
生涯学習課 課 長 磯貝 恭子 課長補佐 本間 正之
文化振興課 課 長 嵐口 守 課長補佐 榊 正喜
博物館 館長補佐 関澤 一
書記 こども課主査 上原 奈穂
- 5 報 告
報告第 50号 感染者の確認に伴う休校等について
報告第 51号 通学路における合同点検安全対策検討結果について
報告第 52号 各課・機関所管事項について
- 6 付議案件
議案第 29号 専決処分の報告について
糸魚川市選挙管理委員会書記の併任について
- 7 会議録署名委員の指名 1 番 谷口委員
- 8 傍聴者 1 人

教育長	令和6年第15回教育委員会定例会を開会する。 報告第50号感染者の確認に伴う休校等について、事務局の説明を 求める。
こども教育課長	(資料に基づき説明)
教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
委員	(「なし」の声あり。)
教育長	質疑なしと認め、報告第51号通学路における合同点検安全対策検 討結果について、事務局の説明を求める。
こども教育課長補佐	(資料に基づき説明)
教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
秋山委員	この結果はどのように共有されるのか。市と学校が共有すると理 解するが、PTAや学校運営協議会と共有するのは市なのか、それ とも学校長なのか。そこが明確になると、きちんとこの情報が流れ ると思う。
こども教育課長補佐	学校運営協議会の委員や防犯パトロール員には学校からお知らせ をする。各地区の代表には市教委から直接区長にお知らせをする。
秋山委員	校長会等でこの結果が共有されるということか。
こども教育課長補佐	そのとおりである。
谷口委員	地区ごとに青少協やPTAがパトロールを行って、街灯が少ない 箇所や危険箇所等を点検して改善要望を出したり、学校と連携をと って情報を共有したりしていると思うが、通学路ではなくても危険 箇所等も併せて点検確認をして、子どもたちが安全に過ごせるよう に努めてもらいたい。
教育長	通学路だけではなく、冬場などの季節的なことがあったり、子ど もたちが活動する範囲には池や川があったり、いろんなことが考え られる。学校の関係は校長がリーダーシップをとりながら、地域 の方と一緒に校区でどこが危険なのかを通学路も含めて危機意識を持 っていると思うが、教育委員会からも季節や場面を捉えて、注意喚 起の啓発を積極的にやっていきたい。
齊藤委員	PTAの立場としてはここが点検箇所として挙がっているという 認識はあるが、対応状況についての共有があまりされていないと思 う。柵をつけたり、止まれの標示を塗り替えたりときちんと対応し ているので、そこもしっかり共有してもらいたい。
教育長	ほかにご質疑はないか
委員	(「なし」の声あり。)
教育長	質疑なしと認め、報告第52号各課・機関所管事項について、事務 局の説明を求める。

こども課 所管事項報告

こども教育課 所管事項報告

生涯学習課 所管事項報告
文化振興課 所管事項報告
図書館 所管事項報告
博物館 所管事項報告
市民会館 所管事項報告

教育長

今ほどの説明について、ご質疑はないか。

キャリアフェスティバルいといがわについて、教育委員の皆さんから感想や気付いたことがあればお聞かせいただきたい。

秋山委員

企業と生徒の熱量を感じた。すごくいい体験を子どもたちはしている。熱量を発している地元企業の皆さんも本当に素晴らしかった。未来の人材に向けて話をされている姿がとても印象的だった。一部の企業の方からは高校生にも来てもらいたいといった声が聞かれたが、趣旨が違ふし、市へ要望するよりも独自の活動になるのではないかと感じた。本当に素晴らしいイベントだった。

齊藤委員

今年もとても盛り上がっていた。学年のカラーもあると思うが、今年は和やかでアットホームな雰囲気だった。事業所もリラックスして参加されていて、和やかに進んでいた。例年よりたくさん質問があったという声も聞かれた。例年サブ体育館でステージ発表や催しを行っていたが、今回は全部ブースになっていたが、例年と比較してどうだったか。

こども課管理係長

過去一番の参加申込みがあり、企業数を絞ることができなかったこともあり、やむなく昨年実施した大人が子どもたちに聞かせる企画は省略した。ただ、先生からは午前と午後で同じような流れは、少し飽きてしまうので、昨年のような企画をまた検討してもらいたいという声ももらっている。また、予算面でもいろいろな経費が上がっていて、今回は講師謝礼等が発生しなかったのも何とか予算内で終わらせることができたが、来年度増額の予算要求をしているので新たな事業展開を考えたい。

教育長

今回の振り返りにそういった観点を入れて、意見交換をしてもらいたい。昨年のヒューマンコーナーは、生徒たちが直接聞いて深く考えることができて、あれはあの良さがあった。

谷口委員

齊藤委員も言われたが、子どもたちがよく質問をしていて、企業も一生懸命説明をしていて、いい話し合いをしている光景が見られた。年々充実していて、企業もすごく努力をしている。建設業界は若い人や女性が働いている姿を見せていて、本当にいいことだと思うので継続してもらいたい。今は午前と午後が同じ形なので、例えば午前と午後でテーマを変えて、午後は企業の方が自分自身のことを語ってもらうとか、建設業の中でグループを作って一緒になって行うとか、やり方の工夫はできると思う。講師を呼んで話をしても

楠委員	<p>らう時間を設けることも効果的だと思う。午前は企業中心、午後は少し違った形をとってみてもいい経験になるのではないかな。</p> <p>去年は建設業の方が体育館でドローンを飛ばしていたが、今年はサブ体育館に建設業者が集まっていたので、そういった工夫があったのかと受け止めた。あるブースでオンライン中継をされていて、実際にその企業でリモートで働いて収入を得ている高校生が話をしていた。すごい高校生がいることに衝撃を受けた。昨年サブ体育館で行っていた講演を1ブースでやっていて面白かった。外のブースがいくつかあったが、生徒はうまく外のブースにも行けたのか。</p>
こども課管理係長	<p>午前中は各学校で割り振りをして分散して回った。午後は自由にブース巡りをしたので仕方ないが、外のブースに行く生徒が非常に多く、中のブースが少し寂しかった。企業も生徒を引きつける企画を年々考えていて、今回は外のブースで実際に車にスプレーを塗ったり、高所作業車に乗ったりする体験ができたことで人気があったと思っている。その辺りも課題として来年に向けて検討する。</p>
楠委員	<p>外のブースに生徒が行かないのではないかと心配をしていたが、逆だったので安心をした。</p>
谷口委員	<p>高校魅力化オリジナル探究のプロジェクトで、笹寿司の開発があった。私も13時過ぎに行ったが全て売り切れだった。作った高校生は手持ち無沙汰のようにも見えたが、一生懸命声を出したり、ポイントラリーをやったりしていた。根知小学校の児童も自分たちで作った缶バッジを売っていた。地域の方と地域おこし協力隊と一緒にやる活動だったが、若い人やその保護者が大勢いた。高校生の活躍の場だったり、コーディネーターが頑張っている姿を地域に見せたりできる大事な活動だと思うので、これからも活動が充実して、盛り上がっていくといい。</p>
こども課管理係長	<p>今年度初めてのオリジナル探究で、コーディネーターが半年ほど前から企画していた。高校生は物を売る経験が初めてで、コーディネーターとしては売れなくても、それはそれで経験値になると考えていたが、実際はすぐ完売した。参加した高校生は、またやりたいという意欲が非常にあり、今回半年にわたり経験したことが今後の将来を考える上で、非常に役に立つと思う。今後、ほかのコーディネーターもいくつかオリジナル探究を進めていくので、高校生の活動の幅が広がると考えている。</p>
齊藤委員	<p>合宿に参加した高校生は前日寝ずに大盛り上がりだったと言っていた。こういった体験の提供はおそらく教員であれば難しく、高校魅力化コーディネーターがいるからこそできた事業だと感じている。生徒たちもすごく生き生きしていた。私も遊びのブースを手伝ったが、いつもイベントに来る世代と違う世代がいた。いつもは乳幼児とその保護者である20代、30代ぐらいがメインでいるイベント</p>

も高校生が出店側に回ることで、その上の保護者世代、40代、50代のこういったイベントに抜けがちの世代が来ていて多世代の交流が図られていた。多世代交流をやりようとしたときに高校生の保護者世代を巻き込めるヒントとなり、そういった意味でも有意義だった。

教育長

ひとつの活動であっても、いろんなことがつながって、参加者の層が増えたり、いろんなことで波が起きたりとたくさんの可能性を秘めている。次からまた次へと、その中でいろんな波が湧き上がってくるのが大事だと思う。地道に、計画的にこの波を皆さんと一緒に起こせばいい、そのためにも応援していきたい。

楠委員

高校生の活躍の場に関連して、市展を見に行く前に新聞でアオハル賞を新たに設置したことを知った。私自身も中高生の作品出品を望んでいるので大変嬉しかった。名前のネーミングもとてもいい。市内でアオハルサポーターが活躍していて、このアオハルという言葉を知りただけで、中高生が頑張っているのかなというイメージがついてくると期待している。今ちょうど作品が市民ホールに飾られていて、市展に行かなかった方にも見てもらえる機会を作っていただいたことにも感謝をする。

教育長

アオハル賞を設置した背景を聞かせてもらいたい。糸魚川にアオハルブームを広げていきたい。

文化振興課長補佐

裾野の広さがどんな分野でも大事だと思っている。美術だけに限らず、舞台芸術も裾野が狭まってくるとその業界自体が小さくなっていくので、そういう意味で高校生の活躍に期待をして分野を設けた。部活動で美術部に入っていれば、作品が出品できるかというところとそうでもない。そういうところを懸念しながらすでに分野はあるが、高校生に出品を働きかけてみよう、今回賞を設けて取り組んだ。実際に出てきたのは書道分野の4点だけだったが、今後は他の分野にも波及していくように、検討、努力等々をしていきたい。

齊藤委員

フォッサマグナミュージアムの入込が非常に順調で、市外から来られる方が多いと思うが、その後の行き先、市内の回遊について工夫しているところはあるか。

博物館長補佐

来館者からは食事をする場所をよく聞かれる。付近にも館内にもないのでぜひ駅前に行ってくださいと観光パンフレットを渡しながらか声かけをしている。あとは石拾いについて聞かれる。石拾いのパンフレットを渡して、ヒスイ海岸やピアパークを案内している。ほかの市内観光施設のことも聞かれることが多く、ミュージアムのチケットを持って行くと翡翠園、玉翠園が割引になるので市内を回っていただけのような案内をしている。教育施設だが、一方では観光施設でもあると職員は認識していて、学術的なことを聞きたい方もいるが、そうでない人たちには市内を回ってもらえるような案内をする。あとは、断層がミュージアムにあると思って来られる方がい

るので、断層はフォッサマグナパークにあって、無料で暗くなるまで見学可能だとパンフレットを渡して案内をしている。どれだけ市内の観光施設に波及効果があるかは検証したことはないが、ミュージアムだけで終わらせない工夫を職員全員でしている。

秋山委員

不登校の児童生徒が8月から比べて6人増えている。数字としては6人だが、各家庭のことを考えると非常に重たい数字だと思う。対応状況の「その他」という項目が特に中学校で前月に比べて23人増加している。その他は具体的にどんなことをしているのか。

こども教育課参事

電話連絡、放課後登校、自宅でのリモート学習等の対応をしている。可能な範囲で教室内にタブレット端末を置いて、授業を中継して参加を促している。各学校で工夫をしながら、それぞれの家庭へのアプローチをしている。

秋山委員

いじめの対応は校内ですぐに対応ができるが、不登校対応は要因が定かでない場合も多く、予防的なものがしにくい。そうなったとき、その他の対応が放課後以降の対応にならざるを得ないのではないかと。保護者対応が主だと思うが、それが勤務時間内でできずに、先生方が苦勞している結果がこの数字に表れていると感じる。現場で苦しんでいるのではないかと推測するが、現状はどうか。

こども教育課参事

各学校の毎月の勤務状況を確認すると生徒指導を要する事案が発生するとどうしても勤務時間が長くなる。難しいところもあるが現状では先生方から頑張ってもらっている。学校内で担任の先生だけに負担を負わせるのではなく、チームで対応することを徹底してもらっていて、担任が抱え込むことがないように各学校でいじめ不登校の対策委員会等で対応してもらっている。

秋山委員

心にいろんな思いがあって、それが不登校という形に表れているのなら、スクールカウンセラーの業務内容に大きく関わってくる。ただ、スクールカウンセラーもオーバーワークに近い対応を個別にしている。人的なバックアップ支援体制、増員等はできないのか。不登校の数が増えていることは大きな課題であり、人的なカバーも同時進行でやらないと救えない子どもが出てきてしまうのではないかと危惧している。

こども教育課長

来年度も相談員の増員を予算要望をしている。予算を確保して、いい人がいれば声がけをしたい。どこかのタイミングでは医療連携も必要だと考えている。子どもの様子を見ながら学校と連携しながら医療に任せることもひとつの手だと考えている。不登校をどのようにして改善できるかを検討して、校長会等で指導したい。

秋山委員

学校も大変な状況下で、放課後の時間をこういった生徒に使っていると思うので、それを少しでも緩和できるような方法が見つかるといい。

谷口委員

学校現場ではチームで対応することが一番だと思う。そういう事

案が発生したら、そう感じたら学習時間であっても別の先生が代わりに授業を行うなどの体制づくりができれば学校としてはありがたいのではないかと。保護者対応は放課後や夜間になることが多いが、すぐに相談員と連携が取れたり、来てもらって話ができたり、そういう体制があれば、少しでも先生の負担が減ったり、学校だけで考えなくていいので、相談員やカウンセラーとの連携、増員も必要である。簡単ではないがそういった部分をより充実させることが非常に大事だと思う。

教育長

特効薬はなく、課題意識を持ちながら人的な部分の予算要望、来年度の予算確保に向けて現在進めている。そこを加味して来年度の体制、もちろん今現在の体制づくりも充実させる必要がある。今後の長期的な取組の中に皆さんの意見を入れて進めていきたい。

楠委員

いじめの認知件数とその対応状況を見ると、昨年度からの継続案件が多くあるが、何が課題になっているのか。

こども教育課参事

いじめ事案は、すぐに対応しなければいけない時期と、その後どのように推移しているのか、再発しないかどうか、長く見ていかなければいけない時期がある。継続というのは、そういった人間関係をしばらく見ていく必要があると判断されたケースが多い。学校からはその人間関係を注意深く見て、報告を毎月上げてもらっている。

教育長

いじめ事案は、両者が納得して折り合いがついたという一応の解決を見た段階から最低3か月間はその人間関係を含めた経過を見ることで進んでいる。解決したけれども内面的なものがまだどこかにあって、再発して、また同じようなことになれば、それは解消にはならない。一応の解決した段階から3か月間は継続して、その子どもたちの言動、様子、人間関係を見守ることが、継続という部分に含まれている。落ち着くまで長く見守る期間を継続としている。

楠委員

どんどん重くなって長引いているわけではなく、見守っている期間が長く続いていると認識でいいか。

教育長

そのケースが非常に多い。

楠委員

原因が分かっている、対応している状況であれば安心した。

教育長

ほかにご質疑はないか。

委員

(「なし」の声あり。)

教育長

質疑なしと認め、付議案件に入る。

議案第29号専決処分の報告について、糸魚川市選挙管理委員会書記の併任について、事務局の説明を求める。

こども課長

(資料に基づき説明)

教育長

今ほどの説明について、ご質疑はないか。

委員

(「なし」の声あり。)

教育長

ご質疑なしと認め、採決に入る。

議案第29号について、ご異議はないか。

委員
教育長

(「異議なし」の声あり。)
異議なしと認め、承認する。
原案のとおり承認

教育次長

次回教育委員会定例会開催
令和6年11月28日(木) 10時から

その他 特になし

教育長

以上で、令和6年第15回教育委員会定例会を閉会する。

11:43 終了